

●木村さんから自動撮影カメラでのアライグマの映像が届けられました。

5 月 25 日に一匹がそしてその後に 2 匹が撮影されたので京田辺市の農政課から捕獲の檻を借用して設置し、餌やカモフラージュを凝らした結果 3 匹を捕らえました。ところが 8 月 6 日の撮影で 6 匹も一度撮影されているものが届けられました。関係機関に写真を届けると、これは大変と大きな反応があつて、京都府から檻設置の現場の視察と専門家による学習会を開きましようとなりました。そして 12 月 12 日に兵庫県の県立大学自然・環境科学研究所准教授で兵庫県森林動物研究センター主任研究員の栗山武夫さんから「成体と在来種への影響」のお話をいただきました。◎アライグマは雑食性で、◎生息密度は解明されていない、◎ニホンアカガエルやモリアオガエルの生息に影響を与えているのではないか、◎両生類の繁殖にアライグマの捕獲が望ましい、◎出産は春に 4 匹の出産をする、◎捕獲や点検観察記録を継続しデーターから推計することが大切だとのお話がありました。

アライグマ捕獲実績(里山農園)

1. 6 月 6 日 檻設置 金田、太田
2. 6 月 13 日 1 頭目
3. 6 月 15 日 2 頭目
4. 7 月 2 日 3 頭目
5. 檻返却
6. 8 月 6 日 6 頭の屋間の写真 撮影
7. 11 月 29 日 再度檻を設置
8. 12 月 3 日 4 頭目
9. 12 月 12 日 5 頭目
10. 12 月 14 日 6.7 頭目
11. 12 月 26 日 檻返却 予定

●田辺区の南田辺地域の子ども会からこれまで地藏盆に使用してきたテントー式を寄贈いただきました。

昨年ミツバチやメダカを取組でお世話になった安岡俊爾さんから申し出をいただき、一時安岡農園に置かせてもらっていました。それを里山農園へ大村さんなどによって移動させていただきました。里山の会では、これまで深田前理事長からのテントは有田理事が地域の催しに使わせていただくことになりました。今回いただいたテントー式は損傷があまりなく一部部品の欠損がありますが一組分として十分使用できるものです。大変有難い申し出でした。

●年末になって里山の会事務所の周囲に繁茂していた雑草を引き抜いた草が枯れて積んでいたのを大村理事長が処分を行っていただき周囲が綺麗になりました。農園に運び込んだ枯草も処分が行われています。正月一番の七草摘みと七草粥の取組には綺麗にサッパリした場所にしておきたいと取り組んでいます。これまでは一部の方々に大変お世話になって年末清掃を行ってきましたが、この頃は自分たちの農園だとの考え方が広がっており、少しずつですが通路が歩きやすくなっています。

●しめ縄づくり 12 月 24 日(火) 朝から大村理事長に準備万端整えていただき実行

里山農園で年末恒例の「しめ縄づくり」に取り組みました。参加者は 13 名で製作指導は大村理事長と太田理事が担当しました。今年は十分に前宣伝が行き届かなかった関係で一般参加者の申込はありませんでした。しかし障害施設の皆さんにご参加いただき成功いたしました。大村理事長はこの頃もち米栽培は苦勞が多いので藁の確保に相当ご苦勞をされました。まず 2 ヶ月前に藁確保から始めなくては作れないのです。近年コンバインでの稲刈りでは稲の茎は田んぼにまき散らかす方法に変わりました。藁確保のためには稲掛けでの乾燥からとなりますので簡単に始められるものではありません。事前にシビを取り除き誰もが作れるように束ねたものを用意するなど随分と準備を進めて



いただきました。おかげで慣れない方でも苦勞をしながらも完成させる事が出来ました。またしめ縄は何故飾り付けるのか、しめ縄飾りとどう違うのかなどについての解説にも取り組んでいただきました。天気が良く寒い冬にも関わらず藁を編み上げる事が出来ました。早くから準備を整えていただき有難うございました。

「しめ縄」とは、神聖な場所・結界という意味で鳥居や神棚に一年中かけておくもので、「しめ飾り」は、年神様をお迎えする目印で、お正月限定で玄関に飾ります。五穀豊穡を祈る意味が加わって来ました。古事記で岩戸に入った天照大神が二度とお隠れになつては困るので岩戸の入り口にしめ縄を付けたとの記述があります。

農園部会だより
草木灰作りと焼き芋

●12月21日(土) 里山農園にて

氷が張っていたぐらいの寒さの中、7人が集結してくれました。集草した草は、植えている野菜の根本付近に敷いたり、土壌に混ぜ込んだりと利活用はありますが、草木灰作りに利用しました。肥料



差し入れのさつま芋



念入りに消火作業を実施

はホームセンターなどで入手することは可能ですが、地域のものを利用して自分たちで作り、利用することは持続可能で共生する社会に向けての大きな一歩です。また、作業は火を使うため危険を伴います。一気に作ろうとすると自分たちで対応できないぐらいに火の範囲が広がる可能性もあり、その加減がとても大事です。ベテランの方々の作業を見て教えていただきながら実際に経験をするといった技術の継承も行いました。何度も経験することによって、若い世代だけで安心して作業ができるようになってもらいたいものです。作業にあたり、楽しみながら作業しないとな。ということで、差し入れしていただいたサツマイモで焼き芋も作りました。差し入れしてくださった方の心遣いと甘くて暖かいお芋で身も心もとても温まりました。

●2024年の里山の会 十大ニュースが決まりました！ 全候補項目 63 から選出

大村、森島、有田、太田、播川、山村



1. 6月6日 アライグマ騒動(餌の改善 6匹の写真 2匹同時捕獲 アライグマ学習会の実施)
1. 3月14日 竹サインペン 500本が販売できた(その後竹製品の注文が続く)
2. 3月19日 ヤマトサンショウウオの第2生息池を発見
2. 12月7・8日 同志社大学サッカー部ボランティア 木津川刈草の集草作業
3. 7月6日 夏の昆虫観察会 桜谷先生指導 中学生4名も参加
4. 2月17日 将棋頭竹蛇籠設置
4. 3月30日 大村氏馬坂川に転落事故 顔面負傷
4. 5月18日 初めてハチミツとメダカの観察会実施
4. 10月6日 第2回子ども魚釣り大会 外来魚駆除 19家族 64人+20人
5. 1月6日 七草かゆの会で能登半島地震救援募金実施

次点

11. 3月9日 木炭窯出し 195kg
15. 3月23日 馬坂川清掃作業 中止延期 30日実施 9人(同大3人)
27. 6月9日 大阪点野 草刈りハンマーモア デモンストレーション
45. 9月26・27日 事務所一階物置 整理作業桜谷先生と行う

●七草摘みにご参加ください。 2025 年 1 月 6 日(月) 七草のうち 5 種類が自然ばえになっています。
やましろ里山の会の恒例の七草摘みにご参加を呼び掛けています。百人一首の 15 番目に「君がため 春の野に出て 若菜つむ わがころも手に 雪はふりつつ」光孝天皇とあります。やんごとなき人は 7 日に行っていたのでしょうか。里山の会は庶民ですので一日早く実行しようと今年も 6 日に里山農園と教育棟広場で若菜を摘み取り七草かゆをいただきます。準備の都合で 50 人の参加枠として開催いたします。新年初仕事としてひと時を楽しみ、一年の健康を祈りましょう。お節の残り物などをご持参くだされば有難く、一層にぎやかな催しになります。手作りで盛り上げてゆきましょう。

一日早く 春の七草を摘み・七草かゆを 食しませんか

お正月に百人一首を楽しまれた方もたくさんおいでと思います
その中で「君がため 春ののにいでて 若菜摘む わが衣でに 雪はふりつつ」が印象に残りませんでしたか。私たちやましろ里山の会では、お正月に何か楽しい取組が無いものかと思案したところ七草摘みをやろうと提案があって結成以来木津川とその周辺の放棄田で七草が摘み取れました。それ以来七草の摘みとれるところを求めてきました。とうとう里山農園で少し手を加えて教育棟があって雨天決行が可能で開催が天候に左右されなく実行できるようになりました。少し交通の不便なところもありますが、駐車場も確保できていますので開催いたします。寒い冬の中で芽吹いてる七草を食してみませんか。皆様のご参加を呼びかけます。



1 月 6 日(月) 里山農園 教育棟とその広場
開催場所 京田辺市普賢寺水取菰谷 普賢寺小学校から南に 800m
集合時間 普賢寺小学校前 9:40 時間に会場まで誘導します
参加費 参加費 500 円(会員 400 円 大人も子ども)
受付人数 50 人
申し込み方法 氏名 住所 年齢 電話 fddb257@yahoo.co.jp
服装 寒さ対策 帽子 作業手袋 筆記具 カメラ等



プログラム

- 9 時 スタッフ集合 会場準備 床拭き 机椅子並べ拭き掃除
- 9 時 40 分 普賢寺小学校前から会場への誘導案内
- 10 時 10 分 開催挨拶 意義と目的
自己紹介 住所 氏名 年齢 新年の抱負
乾杯 お屠蘇
- 10 時 30 分 七草摘み 各現場で七草の説明
- 11 時 15 分 七草の調理準備 水洗い 刻み・賽の目 嚙子
- 11 時 35 分 野菜投入 お粥に 白米 赤がゆ 芋粥 等各種
- 11 時 45 分 試食
- 12 時 10 分 余興 初笑い 腹話術 深山木亭谷野介
皿回し 八幡亭黄金亭
クイズ 多々羅亭自天者 賞品あり
歌声(富士山 1 月 1 日) 伴奏ハナミズキ
- 12 時 30 分 集合写真
- 12 時 35 分 後始末 参加者全員
- 12 時 45 分 閉会の挨拶



七草の名前

セリ ナズナ ゴギョウ ハコベラ ホトケノザ スズナ スズシロ

刻む人を応援する囃子歌 みんなが歌う

七草ナズナ 唐土の鳥が日本の国に 渡らぬ先に あわせて パータバタ

主催 特定非営利活動法人 やましろ里山 京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183 fddb257@yahoo.co.jp

●原木から切り出す 炭焼き体験 参加者募集しています

しばらく炭焼の原木の切り出しは行っていませんでした
これから先、何回も計画できない取組ですのでお越してください

1月22・23・24日（水・木・金） 13:00～15:30

場所 里山農園 現場に移動
所持品 帽子 軍手 手ぬぐい しっかりした靴 飲み物 多少のおやつ
参加費 無料
参加者募集 10人
参加申し込み メールにて受付(fddbiw257@yahoo.co.jp)氏名、住所、年齢、電話番号

釜詰めの手順について

- ①原木精製 長さ 1m 太さ 15cm 割ったり切ったりして整える
生木は1か月間乾燥させる
 - ②窯詰め 原木 1t500 kgを用意する
窯詰めした時上部に燃えやすい小枝を詰めておく
窯詰め前に下水床の残灰を綺麗に除去しておくこと大切である
 - ③着火 しっかりした焚口から燃やし込む 煙の色で判断する
第1回目は炭窯の湿気が抜けきれず調整が難しい（失敗が多い）
黒い煙から白い煙に変ってくる頃を見計らって
焚口の空気調整を行う（一晩位）
 - ④空気の調整 太い管に そして細い管にして 煙の調子から空気補給を遮断する
同時に煙突部分を遮断する
 - ⑤木酢液 着火初期は排煙突だけであるが
排煙の勢いが激しくなってくると横煙突を取り付け
煙を冷却することになり、液が戻ってくる これが木酢液である
一窯で約 80 リットルが最低採取できる
（酸性の非常に強い液体で焼ける匂いがあって防虫作用に最適）
 - ⑥窯出し 空気遮断時から冬で7日目で窯の温度が低下してから製品の窯出しを行う
 - ⑦詰め切り 完全にしていない炭化部分（下部）の切り離しを行って製品に精製する。
長さ 15 cm程度に切り揃えて、見栄えの製品にしてゆく
段ボールに 5 kgの重さにする
 - ⑧製品の管理 床の台の上に載せて 地面からの湿気対策を完全にして保存する。
通風に配慮する
- 指導 元 京田辺市打田薪炭組合 会計責任者 植西千宇さん 88 歳

主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会
事務所：京田辺市田辺深田 15 TEL. 0774-64-4183